

## 第26回地域医療現地研究会に参加して

# 「総合医育成で地域医療再生」

～地域包括医療・ケアにおける中小病院の役割～

<千葉県・東庄町／旭市>

国診協地域医療・学術委員会委員／長野県・佐久市立国保浅間総合病院技術部長兼歯科口腔外科医長  
奥山秀樹

### はじめに

平成24年5月25日（金）、26日（土）の2日間にわたって、千葉県東庄町と旭市において、国診協の第26回地域医療現地研究会が開催された。昨年3月11日の東日本大震災では、両市町のある千葉県の北東部では津波や液状化の被害を受けたとのことであったが、そうした背景のなか、今回、千葉県で開催されたことは大変意義深いことであった。全国の各国保直診・国保連合会から345名の皆さんに参加いただいた。

東庄町は、千葉県の北東部に位置し面積46.16km<sup>2</sup>で、水郷筑波国定公園内にあり、北辺を「坂東太郎」と称される利根川が悠々と流れ、田園風景が広がる自然豊かな人口1万5千人の町である。また、旭市は東庄町の南にあって、南部は九十九里浜に面し、北部は千潟八万石と言われる穀倉地帯がある、人口6万9千人の市である。

今回の研究会は昨年同様、1日目の5月25日の午後から2日目の26日午前中までの開催であった。東庄病院・東庄町保健福祉総合センター・オーシャンプラザおよび総合病院国保旭中央病院を中心に開催された。前日から参加されている方も多く、1日目の午前からの開催も今後の課題と思われる。私は今回初めての参加であり、多くのことを勉強できた。

### 研修1日目 - 5月25日（金）

東京駅から朝8時の鹿島神社行き的高速バスに乗り、鹿島セントラルホテルに9時半に到着した。その後、千葉県国保連合会に用意していただいたバスで東庄公民館へ向かう。11時から国診協の地域医療・学術委員会に出席、10月の熊本での第52回全国地域医療学会、来年1月の地域包括医療・ケア研修会、来年度の北海道で開催予定の第27回現地研究会について協議を行った。

#### 【開講式】

午後1時15分から東庄町公民館大ホールで開講式が行われた（写真1、2）。まず、国診協の青沼会長より、

写真1 開講式が行われた東庄公民館



写真2 開講式



昨年の東日本大震災の影響がまだ大きいこと、中山間地域にある国保直診の医師・看護師不足の問題、社会保障と税の一体改革の影響や国保保険者の都道府県単位化による国保直診に対する影響などについての開会挨拶があった。次いで、東庄町長の岩田利雄氏より歓迎の挨拶があり、その後来賓として、厚生労働省保険局国民健康保険課の濱谷浩樹課長と千葉県の森田健作知事（代理：川島貞夫千葉県健康福祉部長）の二氏より挨拶をいただいた。

続いて、視察研修施設の概要説明があり（写真3）、東庄国保東庄病院院長の高石佳則先生と東庄町健康福祉課の林敏行課長より東庄町・東庄病院・東庄町保健福祉総合センター・オーシャンプラザについての説明があった。次いで、総合病院国保旭中央病院院長の吉田象二先生より、旭中央病院の説明があった。

東庄町は昭和30年1町3村が合併し誕生した。この地域は昔、東氏の荘園であったことが町名の由来である。東庄病院は昭和23年に国保診療所として開設されその後病院となり、増改築を行い、現在80床（一般32床、療養型48床）となっている。平成9年に総合医制を導入したことで入院患者数が格段に増加、また、救急搬送患者数も増加した。

平成10年3月に「東庄町健康づくりの里構想」が策定され、保健・医療・福祉の三位一体化の実現に向け、東庄町保健福祉総合センターが東庄病院に併設された。行政の福祉係・保健衛生係・介護保険係があり、地域包括支援センターと訪問看護ステーションが併設され

写真3 視察研修施設の概要説明を行う  
高石佳則・東庄病院院長



ている。また、民間委託されているデイサービスセンターも併設されている。オーシャンプラザは病院と連結された施設で、東庄社会福祉協議会やシルバー人材センターがあり、東庄病院のリハビリテーション室や2階には東庄病院療養型病棟（48床）がある。

このように、病院・行政の健康福祉課関係部署、社会福祉協議会が同じ敷地内にあり、真に医療・保健・福祉三位一体を実現している。

総合病院国保旭中央病院は昭和28年3月に113床で開院し、その後増床を繰り返し、現在989床36科で医師数244名を有する、診療圏人口100万人を擁する日本有数規模の公立病院である。附属施設として看護専門学校、介護老人保健施設、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、ケアハウス、訪問看護ステーションを有している。また、地域の高度医療や救急救命医療、周産期医療を担当するとともに、地域医療支援病院として地域の他の病院や診療所と連携を密にし、多くの医師を派遣している。臨床研修病院としても、日本有数規模の研修医を受け入れている。入院患者数、救急患者数、手術数、剖検数や収益においても自治体病院、国保直診施設のなかでトップクラスの病院である。

### 【施設視察研修】

施設見学はバス6台に分乗して行われた。私たちの

写真4 東庄病院玄関

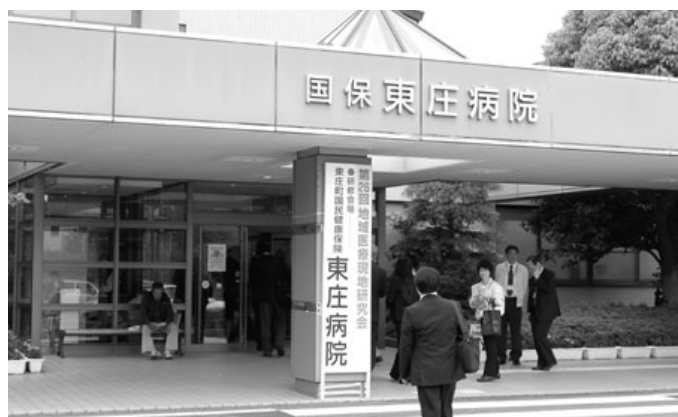


写真7 旭中央病院の新本館全景



写真5 オーシャンプラザと保健福祉総合センター（右奥）



写真8 諸橋初代院長胸像



写真6 保健福祉総合センターでの取り組みの紹介



グループは、東庄病院・オーシャンプラザ・東庄町保健福祉総合センターを見学（写真4、5、6）、病院職員や施設入所者の出迎えの歓迎を受けた。

まず、オーシャンプラザを見学し、町の社会福祉協議会やシルバー人材センターを見せていただいた。一番奥には病院のリハビリテーションルームがあり、そこからは利根川の雄大な姿を見ることができた。次い

で右隣の東庄保健福祉総合センターを見学した。ここでは保健センター・地域包括支援センター・訪問看護ステーション・デイサービスセンターを視察し、また、職員の方の手作りのポスターなどにより、東庄の保健福祉活動を紹介していただいた。

次に、オーシャンプラザの左隣にある東庄病院を見学した。病院職員の方の案内のもと、1階の外来部門・検査部門・放射線部門を視察した。2階は4床室と個室の病棟を見せていただき、連絡通路を通りオーシャンプラザの2階にある療養型病棟を見せていただいた。東庄病院と各地を結ぶ交通手段として「おでかけ号」が運行しており、1日20便無料で6ルート運行している。旭中央病院ルートもあり、多くの方が利用しているとのことであった。

その後バスに乗り、総合病院国保旭中央病院に向かった。敷地面積172,402m<sup>2</sup>の広大な敷地に地上ヘリポートもある病院や、さまざまな併設施設があった（写真



写真9 旭中央病院の玄関ホール



写真12 縫合手技トレーニングセット



写真10 患者図書室ほすびたるひろば



写真13 男女導尿・浣腸シミュレーター



写真11 気管支・消化器内視鏡シミュレーター



写真14 高機能患者シミュレーター



7、8、9、10)。病院玄関脇には、諸橋芳夫初代院長の胸像があった。玄関を入るとそこは一流ホテルのロビーのような広いスペースに受付や総合案内、待合場所があった。増築に増築を重ねたため旧病棟は横への移動が大きく、新本館は縦への移動を主に建築したとのことであった。今は使用していない旧病棟を歩き、地域医療支援センターを見学した。

ここは医師・看護師等の人材の育成を目的に、地域医療連携ユニット・診療支援タスクフォース・臨床研究支援ユニット・教育ユニットがあり、教育ユニットには各種医療シミュレーターが30種類以上装備されていた(写真11、12、13、14)。現在、敷地内での工事が完成すると、地域医療支援センターへのアクセスもよくなるとのことであった。その後、昨年3月に竣工し

写真15 地域医療交流会で今井相談役顧問の開会挨拶



写真16 地域医療交流会でのアトラクション



た新本館を見学した。主に低層階の外来部門や医療技術部門を視察させていただいた。年間約6万人の救急患者さんの円滑な診療体制や料金支払いシステムは大いに参考になった。

### [地域医療交流会]

1日目の夜は、恒例の地域医療交流会が鹿島セントラルホテルで開催された。国診協の今井相談役顧問の開会の挨拶(写真15)では、第1回の現地研究会を主催し今回、久しぶりに参加された長野の矢島先生が紹介され、当時のことなどをお話いただいた。その後千葉県国保連合会理事長の志賀東金市長から歓迎の挨拶があり、旭中央病院開設者である明智旭市長の音頭で乾杯し交流会が始まった。地元料理をいただきながら、アトラクションとして東庄町東和泉鳴和会による郷土芸能の下座(お囃子)が披露された(写真16)。その後、全国から参加された国保直診の皆さんが、熱く地域医療について語り合っていた。最後に千葉県国保連合会副会長の君津中央病院企業団企業長の福山先生より閉会の挨拶をいただき、散会になった。

## 研修2日目 - 5月26日(土)

### [全体討議]

2日目は鹿島セントラルホテル新館で午前8時45分より、「総合医育成で地域医療再生」～地域包括医療・

ケアにおける中小病院の役割～をテーマに全体討議が行われた。

君津中央病院企業団企業長の福山先生と国保多古中央病院長の小久保先生に座長を務めていただき(写真17)東庄病院長の高石先生と旭中央病院消化器内視鏡部長兼附属飯岡診療所長の紫村先生より発表があった(写真18)。

高石先生は、東庄病院の診療再建の取り組みとして、総合診療を主治医制でなくグループ診療とし、確実に研修日を設け学会参加や研修ができるようにし、自治医大卒後5～6年の後期研修で専門研修を続けることにより、認定医・専門医を取得できるようにしたと発表した。こうして専門医をめざしつつ総合診療を行うことで、地域医療再生をめざした。また、中小病院ではある程度の得意領域の専門性を持ちながら、総合医として幅広い診療ができるように育成する必要があると述べた。

紫村先生からは「総合医育成で地域医療再生～地域中核病院の立場から～」と題して発表された。旭中央病院は全国から多くの臨床研修医が希望し、研修を受けている。総合医コースと地域医療コースを設けていたが、地域医療コースは希望者が減り現在は中止した。そのため、地域の周辺病院へ医師を派遣することが困難になった。中でも、旭中央病院で専門研修ができるように地域包括医療に興味を持つ研修医を育成している。

しかし、専門医志向が強い最近の研修医は、初期研修後残留するものが少なくなっているようであった。

写真17 全体討議で座長を務めた小久保氏、福山氏、助言者の高見氏、濱谷氏（写真左から）



写真18 発表者の高石氏と紫村氏



写真19 次期開催の挨拶を行う白川氏



今年の4月に卒後5～10年目の内科常勤医が転出することになり、循環器内科・消化器内科以外は総合内科として対応した。また、昨日視察した地域医療支援センターをオープンさせ、地域全体で診療体制を構築し、診療圏全体で医師を育てる環境を整えることをめざし対応していくと述べた。まとめとして大病院でも総合医は必要で、救急にも対応でき、また、近隣病院との連携で総合医を育成することが重要であると述べた。

その後、会場参加者からの質問や追加発言があり、総合医のあり方や育成について議論を深めることができた。最後に、厚生労働省保険局の濱谷国民健康保険課長と国診協の高見副会長から助言とまとめがあり（写真17）、有意義な全体討議が終了した。

続いて閉講式があり、次期開催地の北海道・鹿追町国保病院の白川拓院長より次期開催の挨拶があり（写真19）、最後に国診協赤木副会長より閉会の挨拶があった（写真20）、2日間の日程を終了した。

写真20 閉会の挨拶を行う赤木氏



◇

今回の現地研究会では、地域包括医療・ケアを実施していく中で、総合医の役割やあり方、総合医の育成等について、その重要性を学んだ。全国からの参加者はそれぞれの地域での包括医療・ケアを実践する上で、今回の現地研修会で学んだことを心に刻み、明日からの活動に取り組む決意をし散会した。